

令和7年度 第4回 小田原市社会教育委員会議 概要

- 1 日 時：令和7年12月23日（火）午後2時から4時まで
- 2 場 所：小田原市生涯学習センター本館 第2会議室
- 3 委 員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、石塚委員、佐藤委員、藤原委員、箕輪委員、山田委員
- 4 職 員：大木文化部長、蓑宮生涯学習課長、遠藤生涯学習課副課長、一寸木生涯学習課副課長、増田生涯学習課主査、今宮生涯学習課主任、村松社会教育支援員、廣瀬社会教育指導員、渋谷生涯学習課主査
- 5 傍聴者：1名

6 概 要

（1）開会

蓑宮生涯学習課長が開会した。

（2）文化部長挨拶

大木文化部長から挨拶をした。

（3）報告事項

「受益者負担の適正化（使用料及び手数料の見直し）について」

一寸木副課長から説明した。

（説明事項）

- ・ 8月27日の社会教育委員会において報告した施設使用料の見直しについては、各条例議案については市議会厚生文教常任委員会に付託され同委員会において審査したが、市民への説明も含めた進め方等に丁寧さが不足していることや、市民の皆様の経済的な負担増となることへの懸念等のご指摘をいただいた。
- ・ 執行部として慎重に検討した結果、利用者等の意見聴取や改定率、施設の利用状況など、今一度内容を精査する必要があることから、文化部所管施設及び他部署所管施設に係る使用料の改定を伴う9つの条例改正案については撤回すべきとの考えに至り、市議会9月定例会において当該議案の撤回について追加提案し、承認いただいた。
- ・ なお、施設使用料の見直しにあたり、市民の皆様や利用者の皆様の考えも聞くべきとの指摘があったことから、アンケートを実施する予定で検討を行っており、今後、適切な時期に再度報告する。

（質疑）

【木村議長】 まだ、決着がついておらず、改めて提案することもありうるか。

【蓑宮課長】 ご指摘いただいた部分を含めて、今後、必要な検討を加え、上程していくということもありうる。

【佐藤委員】 アンケートを通じて市民に対してどういうことを聴いた上で、どういう価格設定で行うかを検討していくということか。

【蓑宮課長】 そのとおりである。

【木村議長】 物価高のときに出すより、もう少し余裕があるときの方が良かったと思う。

他に質疑なし

(4) 協議事項

「生涯学習センター事業の現状と課題及び研究調査テーマを踏まえた検討について」

資料1～3に沿って渋谷主査が説明をした。

(質疑)

【石塚委員】 P T Aの広報担当者研修会や成人教育等研修会については、内容が毎年似たようなものとなっている。研修内容のアーカイブ化や、それを学校ごとに配布し、委員会の役員等が活用できるようにすると良いと思う。

【有賀委員】 資料3の「提言を受けてのイメージ」について家庭教育支援やP T A研究集会に係るものがない。資料1では、P T A研修事業のスリム化や持続化、家庭教育支援でも、子どもと一緒にすることや個別対応についてなど、いくつか意見が出されているので、これらから事業展開のイメージとなるものが考えられると思う。キャンパスおだわらの部分についてはイメージがあるが、右側に関しては全体のイメージが少ない。事業展開のイメージにプラスしてまとめた方が良い。

【木村議長】 子ども会が特にそうであるが、高齢化が進み、公民館にしてもやり手がいらない。トップが辞めた後の引継ぎ手がいなくて消滅せざるを得ないという状況である。家庭教育やP T Aにしても同じ状況で、我々があまり突っ込んだ提言をするのも難しいと思う。

【藤原委員】 家庭教育支援について、以前は、P T Aを入口とした成人教育、社会教育といった役割を学校が担っていたと思うが、いまP T Aは、子どもたちをどう支えていくかという部分にスリム化せざるを得ない状況である。一方で、本校では中学校の生徒がボランティアで地域の健民祭や敬老会に参加することも多く、チャンネルさえあれば地域の活動を支えることが可能だと思う。

また、(家庭教育学級事業として) 地域の育成会の方が毎年、素晴らしい講師を招いて授業を行ってくださっており、全校の道徳のようなことを行っているが、内容的に子どもたちだけではもったいないので、保護者にも呼び掛けていくことで、先ほ

どの成人教育の部分を学校の中でフォローできるのかなと思う。保健指導も、保護者の方は少ないものの、つながっている部分だと思う。また、地域の方とのつながりということでは学校運営協議会が地域の方が多く来ており情報交換の意義では大きいと思う。

【木村議長】昔であれば、学校側でイニシアチブをとって行っていた。

【山田委員】たしかに以前とは異なっていると思う。以前は、家庭教育学級を親子で聞く機会も多く、レクリエーションを多くの学校で行っていた。ただ、新玉小では、秋にバザーのようなものを復活した。参加したい人たちが呼びかけ合って職員も含めて行っているが、青少年育成協議会や放課後子ども教室の先生方、また、小田原愛児園さんなどが子どもたちのためにできるイベントを行った。また、卒業生のOB・OGが母校に戻ってきて、かつて自分たちがしてもらったことをお返しするというような流れは全く消えているわけではない。そのように、学校という場をベースに、そこに人やモノが集まってきて、活性化することができれば良い。やってきた人たちの流れが細々とであっても続いていけばよいかな、と思う。持続可能かどうかを考えた場合、やらされ感があると続かない。

【石塚委員】前羽小でPTA副会長を、下中幼稚園でPTA会長を兼務している。幼稚園は小規模園なので、保護者と園児も一緒にやることなど、家庭教育学級はやりやすい。プラネタリウムやバルーンアートなどを行った。

また、各学校では、地域の方とのつながり等をもとに講師を選定し、招いているところも多いと思う。こうした講師の方に関する各学校の情報を知ることができれば良いと思う。

現在、小田原市ではPTAが無くなっているところはないが、本部役員をやめて、ボランティア制に近いPTAが存在している部分はある。

【佐藤委員】現在、私は、高齢の方と若い世代との中間の世代にいる。地域づくりや学習の方法に関し、高齢の方と若い方で概念が大きく異なると感じる。若い方たちは、自分の興味において取捨選択するという方向にある。仕組みとして転換させる時期なのかなとも思う。そうかといって、高齢の方の活動が無くなってしまうのも違うので、難しい時期なのかな、と思う。現在はみな働く流れにあるので、以前は、PTAくらいしか学びの機会が無かったが、今は仕事場でさまざまな出会いもあり、学びの場も多くある。わざわざPTAに行く必要もなくなっているのではないかな。皆でやろうというのではなく、個人で選べる何かがあると良いと思う。また、人を集めるのに際し、明確な目標があると参加しやすいと思う。研修会や勉強会、こういうことが学べる、というだけだとどうして行かなければいけないかが見えない。皆でこういうことをしたいから、こういう目標がある、といったテーマがあると、私も皆と一緒にやっていこうかな、と思える。学校、市から来る手紙も決定打に欠けるよう

な気がする。PTAにしても、緊急的に危険な状況が生じて、本日すぐにパトロールを行うと人が集まるが、長期的に、毎日パトロールしていても人が来ない。若い世代にはそういったものが必要と思う。

【藤原委員】学校の中における社会教育団体というと、吹奏楽団体が2団体、土休日に学校を使って熱心に練習を行っており、それを見ると、社会教育における地域の資産であると言える。それが、学校の吹奏楽部と繋がるようになってくれば、いままで無かった新たな学校としての関わりも生まれてくると思う。

【箕輪委員】資料2は良くまとまっていると思った。

文化部や生涯学習担当部局だけで対応していくのでは難しいと思った。他の人たちを巻き込んでいくことで、いろいろな見え方をしていくのではないかな。例えば、中学校や商店街などとコラボしていくと良いのではないかな。

資料3の地区公民館の活用については、やはり防災については、みな不安で、地域の共通課題の大きなものとして認識されていると思う。地区の防災訓練は、広域避難所の運営委員会の方々がやっていく部分もあると思うが、実際の避難所となる小中学校について小中学生が良く知っていたりするので、例えば、小中学校の防災教育等とコラボしてやっていけば、いろいろ間口も広がり、参加者の関心も高まるのではないかな。知らない方と何かをやっていくというのはハードルが高いが、1回でも会った人やどこかで見かけたというように、防災訓練がそうしたきっかけになれば良いと思う。

【笹井副議長】古くは仲間同士の関係、コミュニティはしっかりしていた。昔からずっと住んできた人たちが、農業を軸として、かっちりとした、濃いコミュニティが作られており、子どもたちも地域が育ててきた。それが、経済活動が盛んになり、農業人口も少なくなり、人間関係も希薄になってきた。今後は、学校もPTAも自治会も社会教育、生涯学習に際して、コミュニティを作りながらやっていかなければならないという大変な時期になっている。

小田原は歴史も自然も食べ物もあり、風光明媚で良いものがたくさんある。そういうものを市民全体で共有していくと良いのではないかな。小田原を知る、深く知ることが郷土愛、小田原愛につながると思う。子どもころから、そうした学びがあれば、ここに住んでいて良かった等、知ることが愛着の第一歩になるので、そういったことを長期的にやる必要がある。

PTAや自治会など、みな時間がなくてできないという現状がある。文科省では、PTAが衰退していく自治体があれば地域学校共同本部で代替できないかと考えているような節がある。どこの自治体でも関心のある人となない人で二極化しているようである。

人間関係が希薄になっている、という話をしたが、昔ながらの人間関係が残っている場所として「学校」がある。先生が子どもに教えるという関係とは別に、子ども

同士や先生同士の昔ながらの関係が残っているので、そうした学校での人間関係を広げていくのが必要になると思う。PTAや地域の方たちが関わって学校の良い人間関係が地域に広がっていけば、一つの取掛かりになるかと思う。

また、地区公民館は事業をやる場所というほかに、何か「縁側」のような場所であって欲しいと思う。講座やセミナーを行うだけでなく、もっと生活レベルの場が各地区にあったら良いと考えていて、それが小田原に残っているのは本当に幸せなことだと思う。それをどう活性化するか、もっと緩い管理のもとで、例えば、飲食等があっても良いのではないか。飲食しながら防災の話をするとか、食べ物も大事なツールだと思う。

資料は事務局でスマートにまとめていただいて素晴らしいと思った。資料1の3ページにある検討対象は13項目あるが、事業をより良くしていくためにはどうしたら良いか。それぞれ地域の人間関係を作りつつ、個々の事業そのものを一つひとつ変えていく必要があるのではないか。

【事務局】資料3の項目6は、笹井副議長からお話があった、学習対象への「愛着」について記載したものだが、郷土教育として何か具体的なものはあるか。

【笹井副議長】例えば、市内の古建築を含めて、小田原城など。また、有名なパン屋さんや蒲鉾などの食べ物でも良いと思う。小田原の魅力を知る、知ると面白くなり、面白いともっと知ろうとなる。そこで、いろいろな人と出会っていくことで小田原への愛着につながっていく。郷土は歴史や自然だけでなく、そこでの生活にも価値のあるものはある。資源が多くあるのにもったいないと来るたびに思う。

【事務局】石塚委員から、横の情報が見えづらいとの話がありました。

【石塚委員】こういうことをやった。そこにこういう講師が来た。というのを、わが校でもやりたいと思ったときに、連絡の取れる手段ができているとありがたい。家庭教育学級だけでなく、学校のバザーでも、個人情報や掲載の問題はあるかもしれないが、情報に関するどこか共通の場所があると嬉しい。

【有賀委員】PTA活動については、30年くらい前は活発で、親の意識も前向きだった。いま、人が足りない状況であれば、スクールボランティアで声をかけたり、地域の方も含めて皆で見守る姿勢が大切だと思う。

【佐藤委員】何かを学ぼうとするとネットで探すほか方法がない。例えば、子どもがバレーボールをやりたいと言っても出てくるものしか探せない。どのような方法で探したらその団体に参加できるかがわからなくて困った。ネットワークを持った長く住んでいる人は違うのかもしれないが、市民は割とわからないのではないか。ネットで調べる人が多いので、そういうものがどこか一箇所にあると参加しやすい。

【石塚委員】 笹井先生がおっしゃっていた「愛着」に関して、事例として、自分の地域ではお囃子団体が毎週水曜日に体育館で活動しているが、お祭りのときにトラックに櫓を立てて回りながら太鼓を叩くのが楽しかった。基本は小学生なのだが、中高生や大学生になっても手伝いに来たり、小学生に教えたりと、うまい繋がりができつつある。「楽しかった」というものを使って地域の人材に繋げていけるかもしれない。

【笹井副議長】 「おわら風の盆」という有名な行事があるが、中心になっている人たちは、地域ごとに子どもたちに太鼓の叩き方や踊り方を教えている。そして、子どもも一緒に町を練り歩いている。テレビでも取り上げられていた。そこで、公民館が使われていて、そういう社会教育が小田原にもあると思う。

【木村議長】 資料2の「残存する課題」にある、生涯学習団体の後押しの方法についてだが、文化振興で団体を拾い上げているが、そういうのとタイアップしたらどうか。団体からは施設の予約がなかなか難しいとの声も聞く。

【有賀委員】 どういう形でまとめていくか、報告書の全体像が見えない。資料1の経過等やテーマ設定などは載せられると思うが、最終的には、資料3のように、提言を受けての事業展開のイメージがメインになっていくのか。

【事務局】 具体的な骨組みが現段階ではっきりしているわけではないが、資料3については、これを、さらに充実させていければ、というイメージである。

【有賀委員】 事業展開を広報おだわら等で市民に発信してくところが、最終的な目的なのかなと思う。

【事務局】 4つの検討の視点についての資料3への反映が明確にできていない。それを実現していくに当たって皆様から意見をいただきたい。後日でも良い。

【木村議長】 3月にたたき台が出るので、それを皆さんに送ってもらい意見を募った方が良い。

【蓑宮課長】 最終的には年度が明けた5月の社会教育委員会議で出来上がり、6月の教育委員会定例会に報告するスケジュールなので、次の社会教育委員会議に素案をお示しし、5月までのところで、もっとこういうのも入れたらどうか等、ご意見をいただきながら最終型となる。何回かご意見をいただく機会もあると思う。いままでご意見をいただいた中で完成型とは言えないものだが一度作り、ご意見をいただいて充実したものにしていこうという形で進めたい。皆さまのご都合もあるので書面でいただく方法も選択できる。

【木村議長】 本日の資料は保管しておいてほしい。

【佐藤委員】 事業展開については、どこまで具体的に考えるのか。

【事務局】 具体的なところを言っていただけるとありがたいが、現実的な壁もある。考えていただいたものを反映できるとは限らないが、お伝えいただければと思う。
本日、欠席の委員にも書面により意見を募っているのご承知いただきたい。

(5) その他

事務局から「その他」として2点説明

(1) 10月に実施した第3回書面会議について（お礼）

- ・ 報告、協議に際しまして、委員の皆さまには速やかにご対応いただいたことに感謝申し上げます。
- ・ 次回、3月の会議では、令和8年度の予算について報告させていただくとともに、補助金について協議いただく予定である。

(2) 市総合計画の意見聴取について

- ・ 11月に、市企画部からの通知「第7次小田原市総合計画第1期実行計画策定に係る対話の場について」に基づき、第7次総合計画第1期実行計画策定に係る意見聴取の事務連絡を送付した。
- ・ 意見書の提出は本日までだが、もし、意見があり、まだ提出をしていない場合は、FAXやメール等でも結構なので提出願いたい。

(3) 市民学校からのお知らせ

増田主査からチラシに沿って、おだわら市民学校、記念講演について説明。

【蓑宮課長】 いろいろな視点からご検討いただいた。仕組みを変えていかなければならないこと、また、学校がポイントでそれに行政、地域がどう関わっていくか、組織が連携していく必要があるというところ等、多くのヒントをいただいた。それでは、本日の社会教育委員会議はこれを持ちまして閉会とさせていただきます。

閉会

※ なお、当日、欠席された佐志委員、齊藤委員から別途、書面により意見をいただいた。

【佐志委員からの意見】

事業をどう継続、展開していくのか。地域の活動を担う人が先細りしている中で、今まで参加していない人たちをどのように巻き込んでいくかという点を考えていく必要がある。子どもたちがいる学校という場をうまく活かす方法はないのかと考える。

【齊藤委員からの意見】

これまでの議論の内容で十分と思う。

ただし、コロナ禍で停滞した事業について再考が必要で、特に、新規の人生育成に向けて「子ども・若者」及び「若年層」に力点をおく事業の強化、また、地域人の醸成を意図的に行うことが不可欠である。要は、世代交代を行い、活気を取り戻す必要があると考える。小田原市はそれが出来る地域資源やポテンシャルが高い地域である。

<出会い>

○参加者のすそ野を広げる。

ネットやQRコードで簡単な申込み可能な方法

(今の若年層は電話を持たない、しない)

地域の世代間交流を伴うイベント参加(楽しい体験)づくり。

次に来てもらえるような仕組み。

<継続・つながり>

○参加者が継続的に参加

ユース(中学生・高校生・大学生)の居場所になるような場づくり

(駅前UMECOなど、〇〇〜〇〇はユースが優先できる勉強部屋やおしゃべりできる場)

(ユースだけで企画し、取り組めるような楽しい事業運営を強化)

(例えば、「夏休みこどもおもしろ学校」のブースの何点かをユース企画枠にする、など)

<継続・つながり・活かす>

○参加者から生涯学習講座の講師(人材バンク)・講座の企画運営

施設ボランティアの育成、講座の企画運営のボランティアの育成。

小さくても、毎年、研修を行って人材育成を行っていく。

彼らが継続的に活動できる場づくりを意図的に行う。

毎年、新規の人材を育てていく生涯学習の仕組み。

(情報提供⇒相談⇒学習⇒(コーディネート)⇒活かす場)

○生涯学習の基本に立ち返り、再起させる。